

樹医からのアドバイス (Vol.06)

～幹に穴を見つけたら要注意！～

出雲市樹医センター

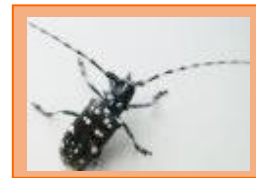
樹医 高橋 義則

庭木の幹に、つまようじの先ほどの穴が開き、木くずが出ているものはありませんか。今回ご紹介するのは、樹木に穴を開けて中を食い荒らし、樹勢を弱らせるカミキリムシです。

カミキリムシとはどんな虫？

カミキリムシは日本に約 800 種類存在します。成虫は体長 25～35 mm程度で、長い触覚があります。市内ではゴマダラカミキリがよく見られ、比較的樹皮の薄いモミジやポプラ、イチジク、ドウダンツツジ、ヤナギなどが被害に遭っています。

6月頃、カミキリムシの成虫は幹の表面にかみ傷を付け、産卵します。ふ化した幼虫は、8～11月に地際の樹皮下を食べながら成長しますが、深く侵入する際に、繊維状の木くずを出します。その後、樹木の中で越冬してさなぎになり、5～6月頃羽化して樹木から脱出します。食害に遭った樹木は衰弱し、枯死することもあります。



カミキリムシの成虫

防除方法は？

成虫は5～8月頃に飛来しますので、見つけしだい捕殺します。早朝は、成虫の活動が不活発なので、駆除が比較的容易です。

樹木の中の幼虫を駆除するには、まず木くずを見つけてください。木くずの排出孔から材内に園芸用スプレー殺虫剤を注入しましょう。

また、産卵防止として、成虫を樹木に近寄らせないために、5月初めにスミチオン乳剤（1000倍）を樹木全体に噴霧しましょう。



幼虫の侵入跡



成虫の脱出跡